

# あきたの 地域医療通信

2016年10月 第25号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室



## ナラティブブック秋田 ～適切な医療や介護サービス提供のために～

在宅医療を受けている患者の情報を情報通信技術（ICT）を使って、本人、家族、医療・介護の従事者間で共有する連携システム「ナラティブブック秋田」。全国初のモデル事業の中心メンバーである伊藤医院（由利本荘市）の伊藤伸一先生にお話を伺いました。

### Q1. このシステムの概要や目的を教えてください。

**A.** 医療分野においては情報の共有というのは様々なところで行われていますが、医療・介護・福祉間の共有はあまり行われていません。秋田の場合、医療は「あきたハートフルネット（秋田県医療連携ネットワークシステム）」で共有されていますが、他の部分はほとんど共有されていないので、そこを埋めるというのが目的です。

ナラティブとは英語で「ものがたり」という意味です。ナラティブブックはその人のものがたりを綴るICT自分手帳となります。このシステムの基本は、その人の情報をクラウド上で一元化し、本人・家族を中心に、認証された医師・看護師・ケアマネなど多職種で共有するという事です。個人の健康・生活に関わる情報はもちろんですが、フェイスブックのように時には趣味的なことを書いても良いです。それによって医療・介護従事者との共有・コミュニケーションを図り、お互いの信頼関係を築き上げていくことが出来ると考えております。

人それぞれには生き方・死に方・死生観・宗教観とい



伊藤医院 院長  
伊藤 伸一 先生

### 【プロフィール】

秋田県出身。1982年に東京医科大学を卒業し、東京医科大学外科学教室に入局。その後、UCLAに肝移植、小児外科研修のため留学。東京医科大学に戻り講師を務めた後、伊藤医院に勤務。2012年には秋田県医師会常任理事を務め、2016年からは由利本荘医師会副会長も務めている。

うものがあり、そのようなところをナラティブブックで拾っていき、皆でその人を支えたり寄り添ったりしていきたいと思っています。

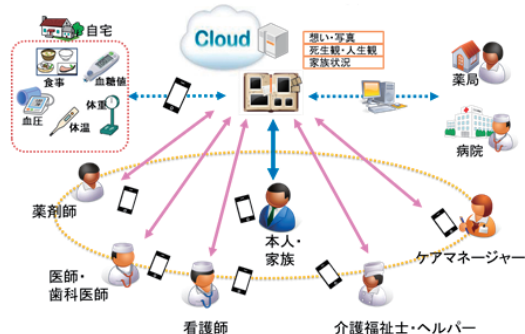
また、その想いや人生というものがたりを綴ることによって、最終的にはこれらの情報を一つのアルバムや本にして、本人が亡くなったときに家族に渡したいと考えています。

### Q2. 「ナラティブブック秋田」を始めた経緯を教えてください。

**A.** オランダに「ビュートゾルフ」という在宅ケア組織があります。訪問看護と訪問介護を一体化した先進的な在宅ケアを提供しており、同国内で広く普及し、非常に高い満足度を得ています。ビュートゾルフ飛躍の重要な要素が、患者の情報やケアの記録などをチームで共有することができる独自のICTシステムです。「このシステムを日本の在宅医療でも取り入れよう」と、富山県のものがたり診療所（ナラティブホーム）所長の佐藤伸彦先生が発案し、私や全国に想いを同じくする仲間が取組をはじめました。

課題は事業費の確保でした。私と全国の仲間たちは、フェイスブックページの「ものがたりくらぶ」で繋がっているので、それぞれの県の補助事業（モデル事業）に応募し、

### ナラティブ・ブック概念図



そこで採用されたところを中心に成功させ、全国に広げ共有していこうと考えました。しかし、どの県もなかなか採用されず、秋田県だけが、私が所属している由利本荘医師会地域をモデル地域とする当事業を採用してくれました。

当初からシステムのベースは出来ていましたが、実際に進めていく過程で、その機能をいろいろ入れ替えながら使いやすいようにアレンジしています。想いの書き方やタイムラインなどもアレンジしているため、当初に比べ大きくページが変わっています。

また、高齢者の方の入力方法について頭を悩ませました。若い方であれば自分で入力できると思いますが、在宅医療の対象となる方はほとんどが高齢者と独居の方です。そこで、委任状を受けて誰かが責任を持って入力するというのを今考えています。さらに、写真機能を重要視しているので、自分で書いたものを写真に撮って送信という単純な操作も考えています。

### Q3. 現在の利用状況を教えてください。

A. 現在は12施設ほどが登録しております。今でも、総合病院や社会福祉協議会、デイサービス、ショートステイなどに赴いて説明をしています。なかなか足を運べない状況ではありますが、今年中に50施設の登録を目指しています。

私自身は、15人程の患者さんのネットワークに加わっています。気管切開をして人工呼吸器をつけている人がレスパイト入院したときに、「病院はどうですか?」と書き込むと、入院中の状況の写真を撮って書き込んでくれました。「ここが辛いからこうして欲しい」と書き込まれば、訪問看護師はその立場からアドバイスを書き込みます。ここには詳細な検査データや画像診断などの医療情報ではなく、今現在の患者さんの状況を綴れば良いのです。医学的なことはカルテに書けば良いし、訪問看護日誌には訪問看護師が必要なことを書けば良い。「こうして生きたい」「こうあるべきだ」

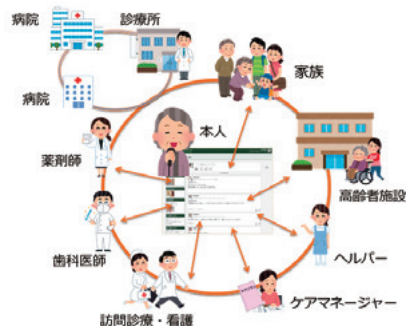
などということを中心に想いを馳せることが大切です。

ここで必要なのが、リビングウィル(生前意思)をしっかりと書き込むということです。自分の最期の死にはどうあるべきか、認知症になったときや意識がなくなったときにどうして欲しいかはその場ではわからないので今から綴っておいた方が良いです。ここに綴ることにより、終末期に本人の希望に反することなく最期を看取することができるのです。

### Q4. 今後の展望について教えてください。

A. 私は、このシステムが日本に必要なだという信念を持ってやっています。まず、由利本荘市でしっかりと成功させてから、全県そして全国に広げていきたいです。現在も様々なところから、「どのようなものか」、「うちでもやりたい」という問合せが多くあります。ただ、あちこちでバラバラに開始してもどこで何をやっているかわからなくなるため、ここで規約やベースを作成してから、各地区に渡して行きたいと思っています。

また、先日、ある教授が「この情報共有ツールは、学生教育にも使える。」とおっしゃっていました。学生にとって、「医学」については覚えることが多くありますが、それは「医術」ではありません。患者さんや関係者とコミュニケーションを取ることができるこのシステムが、将来、地域医療の現場における「医術」を学ぶツールとしても役立つのであれば嬉しいです。



医師から見た患者さんの画面

### Q5. 医学生、研修医、若手医師へのメッセージをお願いします。

A. スペシャリストを目指す人もジェネラリストを目指す人もいますが、基本は患者の立場に立って支えたり寄り添ったりすることです。その人の人生というものがたりを確認して治療やケアをすることが必要であり、一番大切なことは「手当」です。手当とは治すことではなく、手を当てることによって患者さんに寄り添い支えるということをしかりと意識して医療者として頑張ってもらいたいと思います。

## 秋田県職員医師を募集しています。

秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。

勤務期間は  
4年間で1単位

- ◎ 3年間は県内の自治体病院等に勤務
- ◎ 残りの1年間は希望する医療・研修施設において、有給の研修・研究が可能

ご連絡いただければ、  
直ちに資料を  
お送りします

お問い合わせ 秋田県健康福祉部医務薬事課医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号  
TEL: 018-860-1410 FAX: 018-860-3883 E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp

# »»»»»»»»»»»»»»»»» 指導医講習会 ««««««««««««««««««

平成28年6月24日(金)、25日(土)の2日間、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に「第13回 医師臨床研修指導医ワークショップ」を開催しました。国立国際医療研究センター医療教育部門の村岡亮先生、中京大学法科大学院の稲葉一人先生、福井大学医学部地域医療推進講座の寺澤秀一先生、宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座の吉村学先生などから講義をいただいたほか、グループワークやロールプレイを行い、指導医としての磨きをかけました。



開催月日		名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)
10月	29日(土)	医学生のための臨床推論 パワーアップ実践セミナー	医学生 (4~5年生)	秋田大学医学部附属病院 シミュレーション 教育センター (秋田市)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
11月	5日(土)	第5回全国シンポジウム 「日本の国情・2次医療圏の実情 を熟考して、理想的医師・医療者 育成教育の展開を考える2016」	医師・看護師・ 薬剤師・医療従事者・ 教育関係者・ 行政関係者・学生	シンポジウム: 秋田大学医学部附属病院 情報交換会: 秋田キャッスルホテル	秋田大学医学部 総合地域医療推進学講座 TEL:018-884-6226 FAX:同上
	18日(金)~ 19日(土)	第10回レジデント スキルアップキャンプ2016	研修医	ホテルサンルーラル大潟 (南秋田郡大潟村)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883

## 秋田大学医局紹介

### 総合診療・検査診断学講座 (総合診療部)

総合診療・検査診断学講座は、感染・免疫アレルギー・病態検査学講座を前身として2013年7月に新たに開設されました。本講座はその資産を生かしながら、廣川誠教授のもと、専門性(スペシャリティ)と総合性(ジェネラリティ)の両立をテーマとして活動しています。私たちの目標は、①専門的な医療との連携ができ、かつ生活モデルに適合する医療を提供可能な総合診療医の育成と診療の実践、②臓器横断的な病態を解析・診断して治療指針を提案できる総合内科医・検査医の育成、③診断学の進歩に貢献する病態解析と新しい検査技術の開発に関わる研究、④これらの教育・研究・診療を基盤とした切れ目のない卒前・卒後・生涯教育への貢献です。

特に総合診療のニーズと関心は年々高まっています。私たちは、研修医はもちろん、新たに総合診療に興味を持たれた各分野の専門医の方も広く受け入れて仲間を増やし、新しい風を起こしたいと願っています。医局の雰囲気の良さには自信があります。是非お気軽にご連絡ください。



### 問い合わせ先

秋田大学大学院総合診療・検査診断学講座  
准教授 植木 重治  
e-mail: shigeh@hos.akita-u.ac.jp  
Tel: 018-884-6209  
HP: <http://www.med.akita-u.ac.jp/~gimclm/index.html>

# 指導医メッセージ

市立秋田総合病院  
救急科  
長谷川 傑 先生



当院では研修医向けに毎週水曜には救急科主催で救急症例カンファレンスを開催しています。7時30分からと

早い時間ですが、出席率も高く熱心に聴講しています。

研修医が日々の診療で「失敗したなあ」「こうすれば良かったかなあ」などと感じた症例を掲示してくれています。こういう掲示は得てして吊し上げられるのでは？といった負のイメージを持つかもしれませんが、こういう事例を共有することで必ず成長があります。若手とベテランの間にある差は何でしょう？答えは色々あると思いますが、大事なもののひとつはトラブルシューティングのスキルだと思います。予定通りの診察はすぐに来るようになります。しかし、予測を外れた事態に如何に対応できるか、このスキルを上げるためにも同期の失敗は皆で共有して引きだしの数を増やしてほしいと思います。数年もすると堂々と失敗を語れない時が来ますから。

## 研修医メッセージ

大曲厚生医療センター  
長谷川 航世 先生  
(東北大学・神奈川県出身)



私は神奈川県横浜市出身で、東北大学を卒業し、大曲厚生医療センターで2016年4月より初期臨床研修をしています。

東北大学では、私の志望科である整形外科の先生方に当院のOBの方が多く、研修病院として推薦され当院の存在を知りました。学生の時に非常に熱心に勧誘して下さったこと、新病院に新築移転したこと、母が秋田県出身だ

ったこと、大曲の花火競技会を生で見て感激したこと、仙台や東京への交通の便が良いこと、飲み屋街と病院が近いことなど、この病院が私にとって医師としてスタートを切るにあたり最高の環境と感じ、当院で初期研修をすることを決めました。

初期研修医としてスタートして間もなく半年が過ぎようとしています。各科の先生方、メディカルの方々にお世話になりながら日々勉強させていただき成長しております。

この紙面の狭いスペースでは当院の魅力は伝えきれません。研修先を考え中の皆さまは、全力で歓迎いたしますので是非大曲まで見学に来てください！



## 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

〒019-2492 大仙市協和上淀川字五百刈田352 TEL:018-892-3751 HP:<http://www.akita-rehacen.jp/>

当センターは、平成9年に開設、リハビリテーション科、精神科が主たる標榜科です。

リハビリテーション科では、先進的な技術や機器を活用した365日高密度訓練を実施しています。精神科では、秋田県の精神科救急医療体制における全県拠点病院として、急性期治療病棟を設け、救急24時間受入れを実施しています。また、二つの診療科の特色を生かした認知症の治療に重点を置いており、平成25年10月には秋田県認知症疾患医療センターに指定されました。

認知症診療部では、両科の協力による「もの忘れ外来」を開設しているほか、リハビリテーションにも積極的に取り組んでおり、しっかりとした患者評価に基づき、一般的に行われている集団作業療法に加え、回想法（臨床心理）や歩行訓練（理学療法）なども実施しています。

増え続ける認知症の患者さんとそのご家族のために、地域の介護・福祉施設とのネットワーク構築はもとより、県内各地域の拠点医療機関とも連携しながら、センター一丸となってよりよい対応を目指しています。

### … お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号  
E-mail: [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) Tel. 018-860-1410